

2月4日は“風疹の日” — 『“風疹ゼロ”プロジェクト』 —

参考：国立感染症研究所 風疹 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html>
厚生労働省 風疹 https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/
日本産婦人科医会 先天異常部会 <https://www.jaog.or.jp/about/project/birth-defect/>

2023年2月2日

産婦人科 斎藤多佳子

風疹そのものは、経過良好

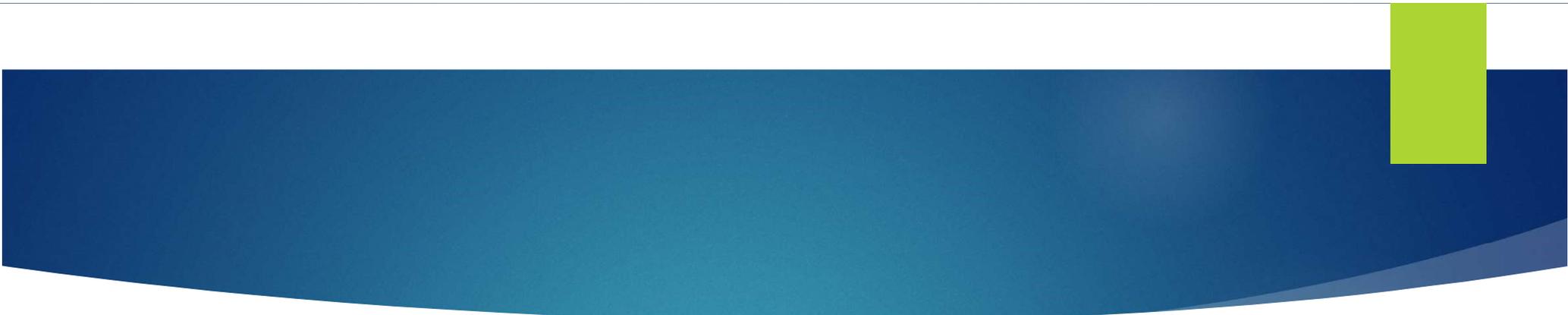
発疹，発熱，リンパ節腫脹を主症状とする，発疹性感染症

- ▶ 一般に症状は軽い（15～30%は不顕性感染）
- ▶ まれに血小板減少性紫斑病や急性脳炎などの重篤な合併症を併発することがある
- ▶ 成人では小児に比べ重症となり，高熱や全身の関節痛を合併することがある
- ▶ いずれもほとんどは一過性で，重篤な合併症例を含めて予後は良好

先天性風疹症候群 (CRS : congenital rubella syndrome)

CRSの三大症状は、先天性心疾患、難聴、白内障

- ▶ 先天性心疾患と白内障は妊娠初期3ヶ月以内の母親の感染で発生
- ▶ 難聴は初期3ヶ月のみならず、次の3ヶ月の感染でも出現。
高度難聴であることが多い。
- ▶ 三大症状以外には、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など多岐に亘る。

- 
- ▶ 母親が発疹を出しても、胎児まで感染が及ぶのは、約1/3であり、またその感染胎児の約1/3がCRSとなる
 - ▶ 成人でも15%程度不顕性感染があるので、母親が無症状であってもCRSは発生し得る。

妊娠の早い時期ほどリスクあり →妊娠して来院してからの注意喚起では遅い

- ▶ 妊娠中の感染時期が早いほど、CRS発症のリスクは高い
 - 妊娠1ヶ月 50%以上
 - 妊娠2ヶ月 35%
 - 妊娠3ヶ月 18%
 - 妊娠4ヶ月 8%
- ▶ 妊娠20週以降の感染では基本的に永続的な障害を残さない

CRS発生例

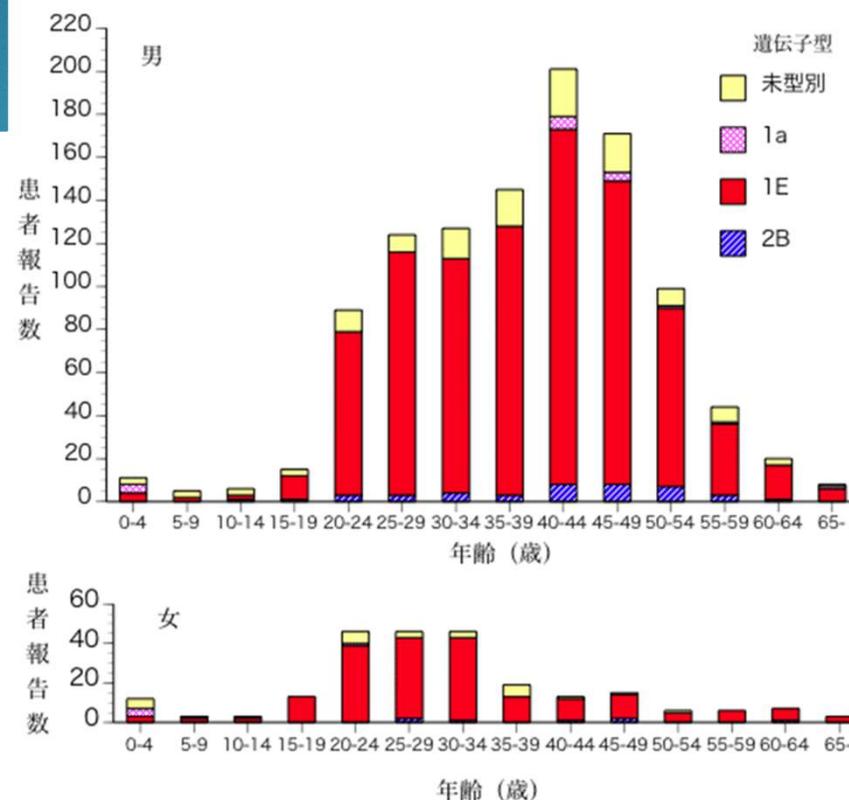
年	診断週	報告都道府県	感染地域※	性別	母親のワクチン接種歴	母親の妊娠中の風しん罹患歴
2014年 (n=9)	2週	福島県	福島県	男	無	あり
	2週	東京都	東京都	女	不明	あり
	2週	島根県	島根県	女	不明	無
	2週	兵庫県	兵庫県	男	不明	不明
	3週	東京都	神奈川県	男	不明	あり
	7週	大阪府	大阪府	女	あり(平成元年:MMR)	あり
	8週	東京都	東京都	女	あり(13歳:風疹単抗原)	あり
	12週	新潟県	千葉県	男	あり(平成3年:MMR)	不明
	40週	千葉県	千葉県	男	無	あり

年	診断週	報告都道府県	感染地域※	性別	母親のワクチン接種歴	母親の妊娠中の風しん罹患歴
2019年 (n=4)	4週	埼玉県	埼玉県	男	あり(回数不明、接種日不明、種類不明)	不明
	17週	東京都	東京都	男	不明	不明
	24週	大阪府	大阪府	男	不明	なし
	44週	東京都	東京都	女	不明	あり
2020年 (n=1)	2週	福島県	神奈川県	男	あり(1回、接種日不明、種類不明)	あり
2021年 (n=1)	2週	岡山県	大阪府	男	あり(回数:1回、接種年:令和2年、種類:風疹単抗原)	なし

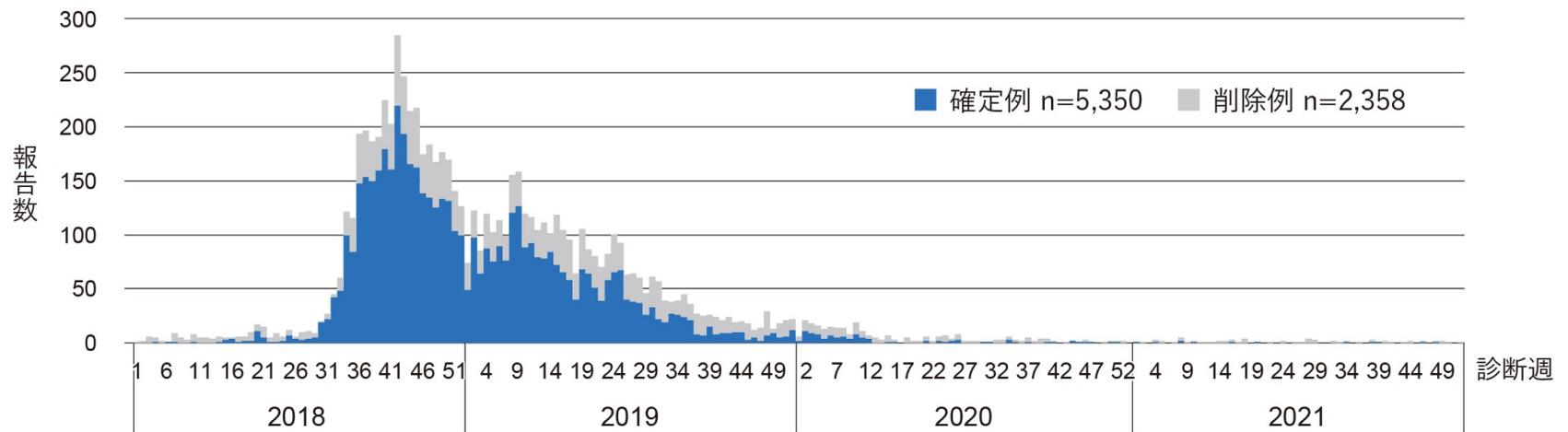
近年の流行

- ▶ 2013年(14,344人)の流行以降、
- 2014年319人
- 2015年163人
- 2016年126人
- 2017年91人と減少傾向であったが、
- 2018年は2,941人
- 2019年は2,298人が報告された。

風疹ウイルス分離・検出例の性別年齢分布, 2019年
(NESID病原体検出情報: 2022年8月18日現在報告数)



* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



	2018年	2019年	2020年	2021年
確定例	2,939	2,298	101	12
削除例	949	1,175	178	56
確定例の割合	76%	66%	36%	18%

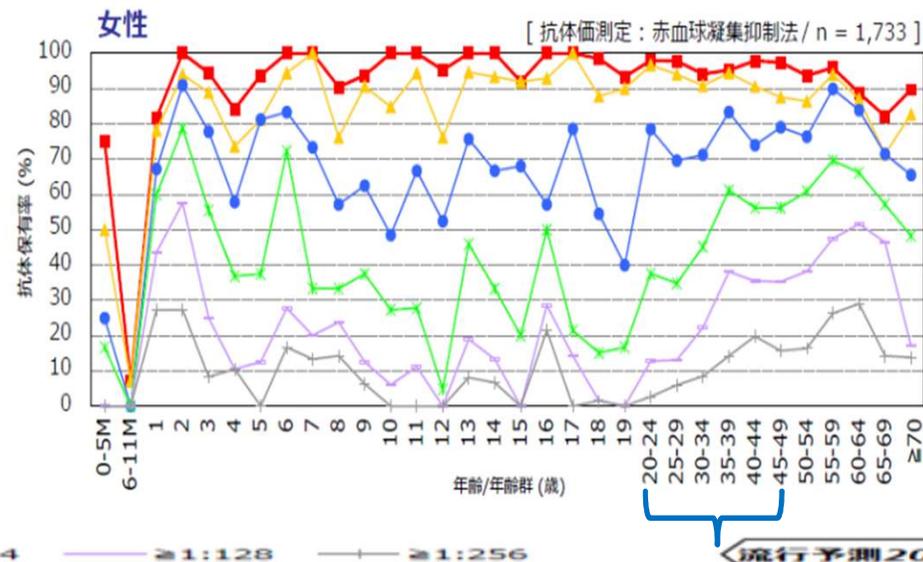
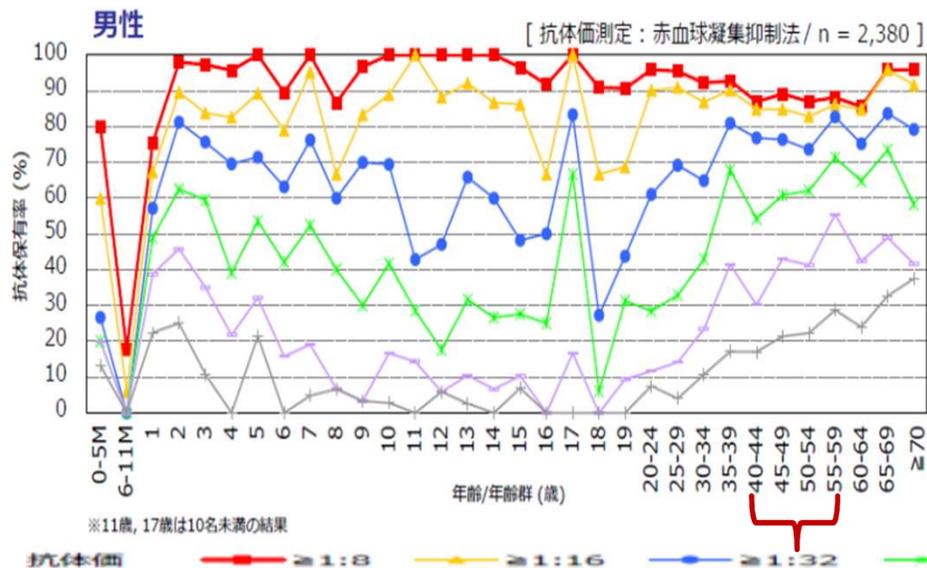
図. NESIDへの風しん症例報告数、診断週別、2018～2021年

▶ 2020年以降は再び報告数が減少

風疹抗体保有状況 (2021年度の調査数は約4,000人)

図12-1 男性年齢/年齢群別風疹 HI 抗体保有状況

図12-2 女性年齢/年齢群別風疹 HI 抗体保有状況



【2021年度風疹感受性調査実施都道府県】

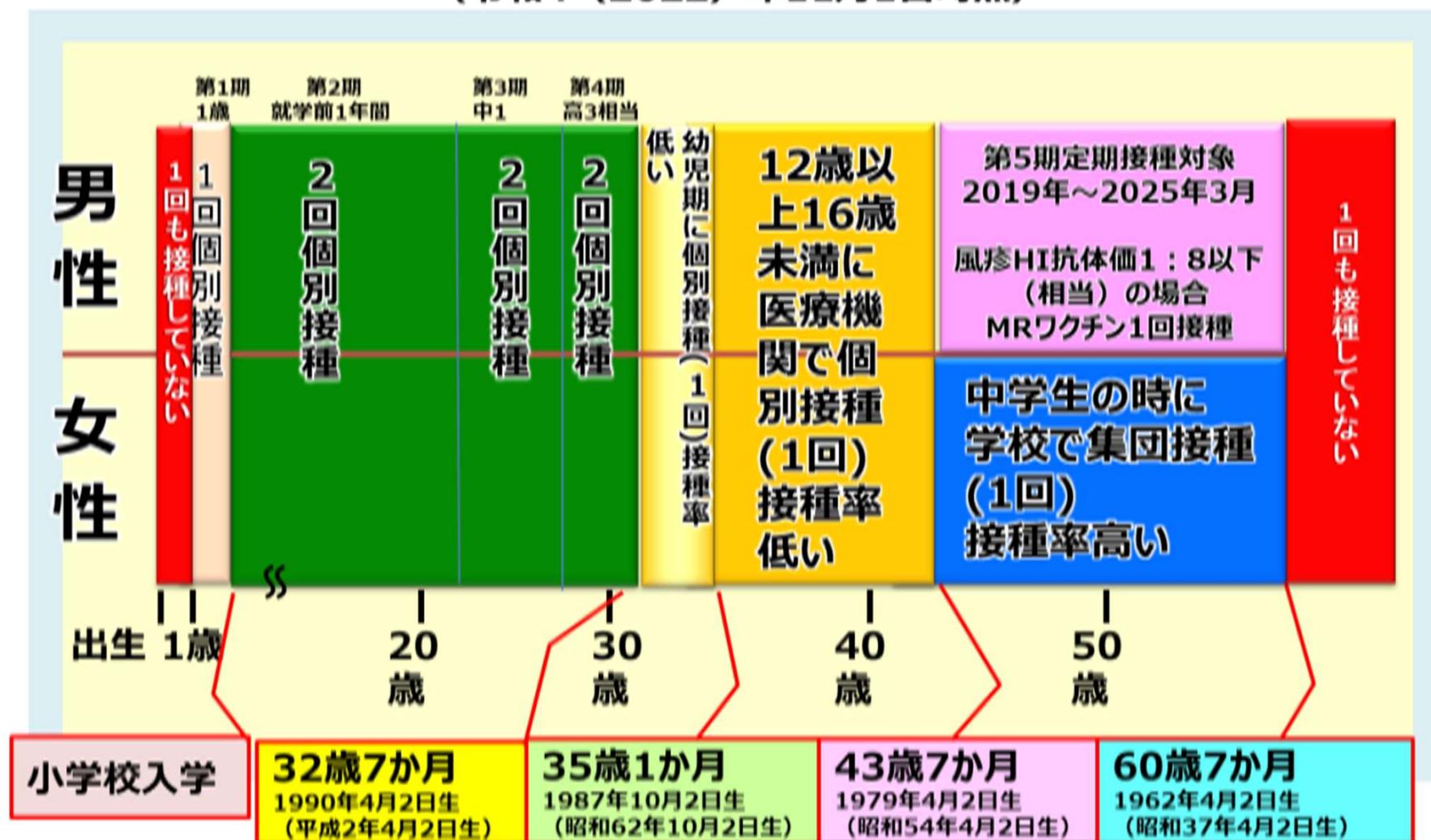
北海道, 茨城県, 群馬県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 石川県, 長野県, 愛知県, 三重県, 滋賀県, 京都府, 山口県, 高知県, 鹿児島県

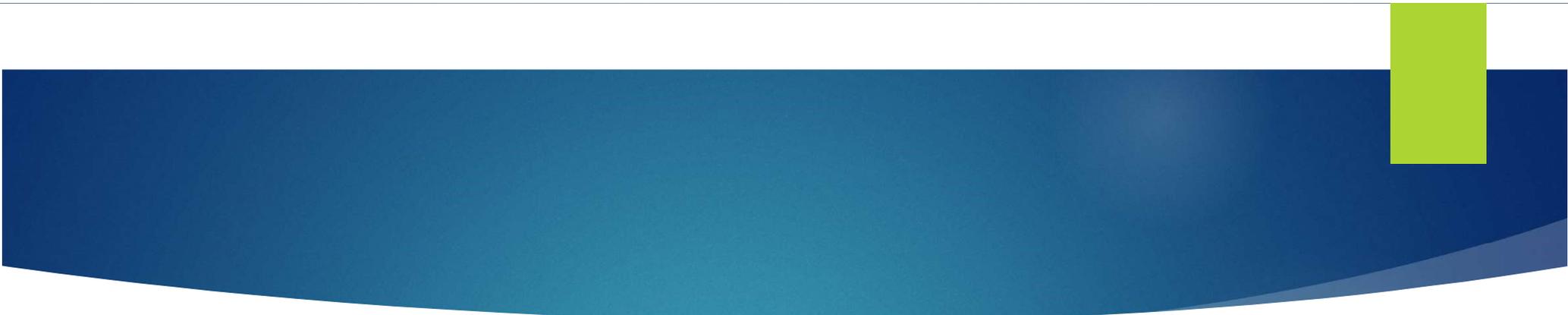
流行予測2021

ワクチン接種

- ▶ 過去に公的に予防接種が行われていなかった昭和 37（1962）年 4 月 2 日～昭和 54（1979）年 4 月 1 日生まれの男性は、積極的に風疹抗体検査を受け、検査結果に応じて予防接種を受けることが勧奨されている。
- ➡ 風疹抗体検査・第5期風疹定期接種の無料クーポン券を配布
- ▶ 本制度は 2022 年 3 月までの期間限定であったが、3 年間の延長が認められ、2025 年 3 月まで第 5 期定期接種として継続されることが決定した。

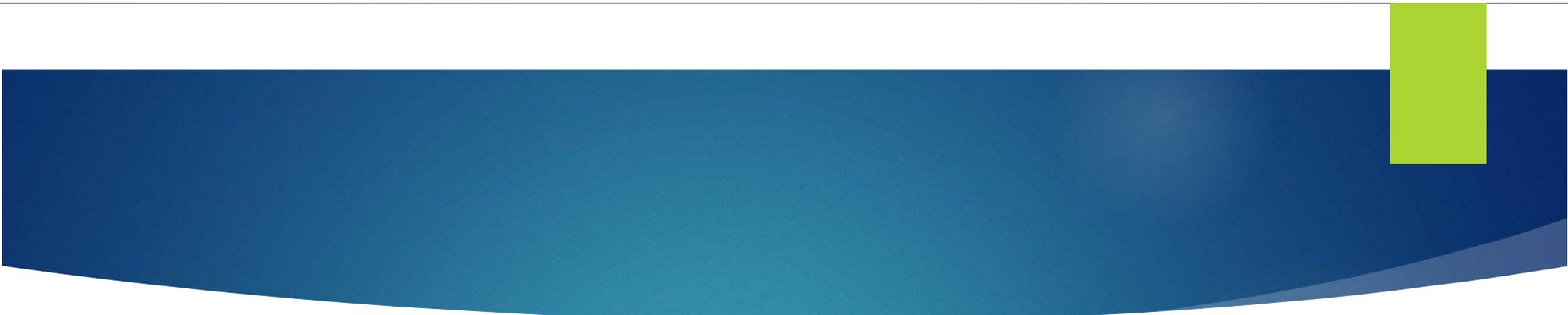
風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係 (令和4(2022)年11月1日時点)



- 
- ▶ 厚生労働省によると、2019年4月1日時点の第5期定期接種対象（1962年4月2日～1979年4月1日生まれ）の男性人口は全国で約1530万人。
 - ▶ 2022年8月までに抗体検査を受けた人は約430万人で対象男性人口の28.0%（2022年5月から+1.1）、予防接種を受けた人は約92万人で対象男性人口の6.0%（2022年5月から+0.2）。

産後の風疹ワクチン接種

- ▶ 妊娠初期スクリーニングで風疹抗体価を測定
(自治体による無料券あり)
 - ▶ 低抗体価 (≤ 16 倍) では、次回妊娠時の風疹罹患のリスク減少および社会全体の抗体陽性率上昇のために産褥早期のワクチン接種が推奨されている (産科ガイドライン2020)
- ➡ 当院では産後入院中のワクチン接種に取り組んでいる

- 
- ▶ 2021年と2022年に当院で出産した人のうち、44% (328/739) が妊娠初期に低抗体価
 - ▶ そのうち88.7% (291/328) が入院中にワクチン接種

柏崎市より
風しん単独ワクチンで
4,000円の助成あり

まとめ

- ▶ わが国では風疹流行のリスクはいまだに消えていない
- ▶ 妊娠20週頃まで（主に妊娠初期）に風疹ウイルスに感染すると胎児が先天性風疹症候群になるおそれが生じる。
- ▶ 30～50代の男性は風疹に対する抗体価保有率が低く、風疹流行の要因となっている。
- ▶ 風疹ゼロを目指すにはワクチン接種の情報提供が重要である